



お祝いのことば

神奈川県ソフトボール協会  
会長 河野 洋平

昭和55年5月、神奈川県少年ソフトボール連盟は県内各地で活動していた状況を一体化し、神奈川県ソフトボール協会に加盟、(財)日本ソフトボール協会にも加盟し、県内組織統一の強化をはかると共に、全国都道府県の組織強化を推進する努力を計った方策とし、神奈川県ソフトボール協会に加盟した。そして、今日、神奈川県少年ソフトボール連盟の30周年記念と組織の現状を提示し、強化対策として機会をつくりあげ、共に確認し、決意する機会をつくりあげたことを心よりお祝い申し上げます。

横浜市内、横須賀市内、小田原市内、厚木市内等ではすでに小学生にベースボールスタイルの競技を実施していましたが規約統一をはかり、多くの関係役員の指導方針を集約、競技規約を検討して共通理解と一致した方策を確立したものであり、大変タイムリーなチャンスでありました。

監督・コーチ等を対象としての指導者講習会、競技規則の講習会、技術研修の講習会など神奈川県ソフトボール協会の協力作業や大会実施の振興の協力作業など、相互の立場を有効に活用し合い充実するねらいでもあります。

関東大会の開催、全国大会の参加・開催により次第に選手強化の面で、監督同士・選手同士でも見聞を広くする向上効果も生んできています。技術向上だけでなく礼儀作法、規律の遵守にも多大の成果が挙げられました。

一年一年、神奈川県ソフトボール協会と神奈川県少年ソフトボール連盟との交流は状況判断を明確にし、選手の健康管理なども研鑽するようになり健全なスポーツとして進歩している効果も挙げられております。今後も相互に研修会として親和関係を主題として状況判断を明確に協議して、その効果を挙げ続けたい。

相互の交流が今後の活動の中に活かされ、健全なソフトボール競技の道を向上してまいりたいことを意思表示し合い、頑張りましょう。

神奈川県少年ソフトボール連盟創立30周年にあたり、神奈川県ソフトボール協会代表の祝辞といたします。



神奈川県少年ソフトボール連盟 創立30周年を祝して

神奈川県ソフトボール協会  
副会長 竹内 吉治

神奈川県少年ソフトボール連盟の創立30周年をお祝い申し上げますとともに貴連盟の今日に至りました努力の継承、発展を心からお慶び申し上げます。

ソフトボール競技を主題に県内少年の皆さんを基盤として第一歩を踏み出し、大会運営、組織確立の為、人材の育成、普及活動、事業の充実に力点を置き、一步一步着実に邁進し今日の姿になりました。

歴代役員や会員各位の温かい少年に対する指導方針とその情熱と不屈の精神をもって対処していただいた努力の成果であり、ここに、関係者皆様に深く敬意を表しますとともに、ソフトボール競技発展の一助と厚く感謝申し上げます。

全国各都道府県ソフトボール協会役員の子どものこども達に向けた情熱の傾注と相俟って、昭和62年から全国大会が開催され、関東地区大会も開催されることとなり1,700余のチームが参加する隆盛をみるようになりました。

神奈川県ソフトボール協会においても130余のチームが参加されるようになり、全国一・二の登録・大会参加チームを有する神奈川県となりました。厚木クラブ・久留和子子ども会・金沢スターズ・横須賀チームが全国制覇し、西湘・富士見連合なども上位チームに入賞しており、神奈川県代表チームの活躍は、優れた成果を挙げられました。

順調に展開していただいている県少連の活躍を今後も御期待申し上げるわけですが、「礼に始まり、礼に終わる」礼儀作法を練習でも大会中でも見受けられるチーム、選手らの姿を継続して欲しいし、ソフトボール競技を基盤として、学校生活や家庭生活にも規律をもって、日常生活にその指導が生かされるよう願っております。

選手の今後の成長していく姿を見られると信じていますが、指導の任に当たる皆様情熱も必要条件となります。

関係者一同、一致した行動を発揮し、ますます神奈川県少年ソフトボール連盟の発展を御期待申し上げ、創立30周年にあたる祝辞と致します。



お祝いのことば

神奈川県ソフトボール協会  
理事長 清田 一正

神奈川県ソフトボール協会加盟団体である少年ソフトボール連盟創立30周年おめでとうございます。

組織作り、活動の理念等苦勞した中において、昭和55年『1980年』県内各地の少年ソフトボールチームに携わっている関係者によって連盟が発足したと聞き及んでいます。

少年ソフトボール連盟加盟チームの選手等、競技力の向上、健全な心身の育成への目標が徐々に達成されていることに心よりお喜び申し上げます。競技力向上に目を向けてみますと、4つの大会『全国大会、関東大会、関東選抜大会に出場するための県大会、夏季大会、秋季大会、各支部代表選手によるオールスター大会』を揚げる事が出来ると思います。県大会等で培った技術、精神力が継承され各支部の指導者が切磋琢磨し少年の育成に努力されている事に心より敬意を表します。

全国小学生大会では、平成4年度（第6回）久留和子供会（横須賀）が初優勝しそれ以来、平成7年度（第9回）厚木クラブ（厚木）、平成10年度（第12回）金沢スターズ（横浜）、平成14年度（第16回）横須賀（横須賀）、平成15年度（第17回）横須賀（横須賀）が2連覇、平成18年度（第20回）横須賀（横須賀）、平成20年度（第22回）横須賀（横須賀）が優勝旗を神奈川県に持って帰って来ました。

関東大会においては第1回大会で金沢スターズが優勝して以来、第2回大会厚木選抜、第3回オール西湘、第5回大会西湘、第7回、10回、11回、12回、13回大会厚木クラブ、第14回大会富水ジャガーズ、第15回大会TMファルコンズ、第16回大会大窪タイフーン、第17回、18回、19回大会西湘、第20回、21回大会横須賀、第22回、24回大会金沢スターズ、第25回大会西湘、第26回大会金沢スターズが関東の頂点に立ちました。

関東選抜大会においても、全国大会、関東大会同様の戦績を収めました。2007年度から実施された春季全日本小学生男子ソフトボール大会においては、第1回大会で横須賀が優勝を成し遂げていました。第2回大会では西湘が準優勝と素晴らしい戦績を収めました。

神奈川県ソフトボール協会傘下の一団体である少年ソフトボール連盟の地道な活動が全国、関東大会での活躍に連なっていることと確信いたします。

少子化の今、是非、小学生の時よりソフトボールの楽しさを身につけさせ、今後のソフトボール界を背負う一人ひとりとなることを夢（現実）になる様、役員、関係者のご指導を宜しくお願い申し上げます。

30周年をひとつの契機として、今後、貴連盟が目指している目標を遂行し益々発展されることを衷心よりご祈念申し上げますお祝いのことばとさせていただきます。



創立30周年を迎えて

神奈川県少年ソフトボール連盟  
会長 法花 義人

神奈川県少年ソフトボール連盟（以下県少連）が、この度、創立30周年を迎えました。これも偏に、ソフトボール関係者をはじめ多くの皆様のあたたかいご指導、ご協力の賜と心から感謝申し上げます。

県少連は、ご承知のとおり子どもを中心に活動しています。少子高齢化が進む社会において、この「宝もの」といふべき多くの子ども達をグラウンドに預かり、日本の文化とも言えるベースボール型スポーツのソフトボールを通じ、情熱とボランティア精神に徹した指導者（監督、コーチ等）が子ども達と心をつなげて毎日練習を重ね活動しているものと信じています。

県少連には現在、130を超える多くのチームが所属して活躍しています。その一つひとつのチームの指導者やチームを支える保護者の皆様の日常の献身的なご努力にはいつも頭の下がる思いであります。このご挨拶の誌面をお借りして改めて心から敬意を申しお礼申し上げます。

県少連の30年の歴史の中で子ども達の努力はもちろんのことではありますが、これら指導者の子ども達への情熱的な努力が実り、子ども達の夢の舞台である全国大会や関東大会等の対外試合において優勝という金字塔を何度も建てることができました。このことは私ども県少連にとりまして特筆すべきことであり大変うれしい結果であると思っております。

また県少連の恒例行事となっている夏季大会、秋季大会、オールスター大会等各種大会は県少連の各支部や関係者のご協力により大変充実した大会となっています。これら大会を通じて、子ども達選手は、お互いに競い合うチームとして、そしてライバル仲間として大きく成長しているものと自負しています。

県少連では、手前味噌ではございますが大人も子どもも「人生の基本である心と体の健康を大切にすること」、「選手もチームも行動に目標を持つこと」、「常にありがたうという感謝の気持ちを持つこと」をモットーとして活動してまいりたいと考えています。こうしたソフトボールの指導の中で子ども達が強さと周りを思いやるやさしい心を持った若者に育って欲しいと念じています。

人生は出会いから始まると云われています。子ども達はソフトボールというスポーツに出会ったことから色々な人との出会いが生まれます。子ども達にとってその出会いが素晴らしいものとなりますよう私ども県少連はこれからも努力を重ねてまいりたいと思います。どうかこの30周年を節目として、今後とも県少連に対する皆様のご指導、ご協力を心からお願い致します。

終わりに皆様のご健勝をお祈り申し上げ30周年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。



創立30周年を迎え更なる発展を

神奈川県少年ソフトボール連盟  
理事長 萩原 右一

神奈川県少年ソフトボール連盟（以下、県少連）が創立30周年を迎え、心よりお慶び申し上げます。

現在県下には130を超える多くのチームが加盟しています。それぞれのチームの指導者や保護者の皆様方の日常の支えがあり、立派にチームを継続し活動している姿に心より感謝を申し上げ、敬意を表します。

県少連では、夏季県大会・秋季県大会を初め、全国関東県予選・オールスター大会・関東選抜県予選会等の大会を各支部が主管となり開催し、それぞれの支部の充実を見ることができ、大変素晴らしいスタッフに恵まれていると自負しております。

ここ10年間に全国大会、関東大会の公式試合で、優勝・準優勝・上位入賞と神奈川県代表チームは、輝かしい戦績をあげています。

この素晴らしい成績に私ども県少連役員も一丸となり、神奈川県ソフトボール協会と共に今春の全国大会では「神奈川の組織力」を示そうではありませんか！

最後になりましたが、県少連が30周年を節目としてソフトボールの振興寄与により一層の精進、努力を重ねていく所存ですので、県少連に対する皆様方のご指導、ご協力を心からお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝をご祈念し、創立30周年記念のご挨拶とさせていただきます。

「萩原さんへ」



神奈川県少年ソフトボール連盟  
参与 本多 孝



萩原さん、今、あなたは何処から私たちをみていますか？  
芦子小学校の上からですか。それとも酒匂川スポーツ広場の上空からですか。

昭和53年から、芦子小学校の生徒を集め、チームをつくり、小田原一強いチームということで、「小田原ハリケーン」と命名し、それからは名のとおり、常に台風の存在で、小田原ハリケーンの萩原として、他の目標となる指導者でありました。

優勝した時や、節目の折、自宅庭でのバーベキューは、選手・保護者・指導者間の「和」づくりに大変な努力をしていましたが、これらは、萩原夫人の絶大なる理解と協力があったということは忘れてはならないことでした。

昭和59年、豊富なる経験と指導力を鑑み、西湘連盟の副理事長として連盟が迎え、不動の組織へと成長していったのでした。

平成3年に西湘連盟の理事長になり、西湘18チームの親となり、併せて、神奈川県少年ソフトボール連盟の副理事長に就任されました。

その後、平成20年に神奈川県少年ソフトボール連盟の理事長として、慈愛に満ちた心をもって子どもたちと接し、素晴らしい組織作りをなさいました。今後も、あなたの意思を継承していくつもりですから、青空の上から、いつまでも、温かく見守ってほしいと願います。